



JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン

発行者 菅野 一位
編集者 教 宣 部

〒105-0021
東京都港区東新橋2-8-28
TEL (J R) 057-7333
TEL (NTT) 03-6452-9687

ホームページ検索
「J R E ユニオン」

基本理念

1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とところをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

ジェイアール・イーストユニオン

第6回 定期大会

安全の確立と、民主的企業内労働組合の構築に向け、

全組合員で組織拡大を加速させ、民主化闘争を完遂しよう

イーストユニオン中央本部は7月9日、田町交通ビルにおいて、大会構成員、来賓、傍聴者を含む約60名の出席で「第6回定期大会」を開催した。

大会は飯野執行副委員長の開会の挨拶で幕を開け、大会議長には、瀬藤代議員（新潟）を選出しスムーズな議事運営がなされた。JR連合松岡会長を来賓に迎えるなか、議案提起後の質疑

応答では9名の代議員から、組織拡大に向けた決意や、安全・技術継承問題に対する多くの意見などが出され、活発な議論により運動方針は補強された。のち、各議案は満場一致で承認された。

秋山執行副委員長の閉会の挨拶の後、菅野執行委員長長の団結ガンバローで、締めくくられ、イーストユニオンの新たなスタートの幕があがった。

大会議長

瀬藤代議員（新潟）



多くの代議員の活発な意見をいただき真摯な議論がなされ、本大会が成功に結べるよう、皆さんの協力をお願いする。

中央執行委員長挨拶

菅野 一位
(挨拶・要旨)

組織拡大を加速させよう

総力をかけた闘い その結果は この1年にある

九州・四国・山陽地方

を中心とした豪雨により、大きな被害と多くの方々が被災された。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、お怪我された方々の一日も早いご快癒をお祈りし、



被災に遭われた皆様へのお見舞いを申し上げます。私たちが経験した東日本大震災からも7年が経過した。鉄道輸送における防災意識に対しても、労働組合の観点からもしっかり取り組み、安心してご利用いただけるインフラ企業としての責務を果たしていかなければならない。

混乱する政治情勢は、野党が離合集散する中で、自民党総裁選挙が9月に調整されている。安倍首相の3連続選出が濃厚。私たちの意見を代弁する国会議員を政界に送り込

むことが重要である。来年度の第25回参議院議員選挙においては、U A セン組織内候補予定者の「田村まみ」氏を支持推薦していく。

民主化闘争と組織拡大

今年2月に始まったJR東労組の瓦解は、会社との関係終焉に向けてまっしぐらに進んでいる。4万6千人の組合員は、わずか4ヶ月の間に1万3千人とも言われ、7割を超えて3万3千人の組合員が、組合未加入者となった。いま、会社はJR東労組との「労使共同宣言」も破棄し、会社とJR東労組の労使関係は破綻した。併せてJR東日本労連に加盟していた大方のグループ労組が労連を脱退したとの報も流れている。

JR東労組と会社との関係は終焉したが、過激派に蹂躪されたJR東労組が無くなった訳ではない。そして東労組を脱退した社員が、いま各地で新しい労働組合を結成している。しかし、1年半前の12月頃、「スト権の模範投票」を実施したところから、この間をよく振り

組織拡大が続く 仙台・新潟でも!

5月の東京地本における3名の組織拡大に続き、6月21日に仙台地本で、そして7月25日に新潟地本で、それぞれ1名の組織拡大を果たした。JR東労組が瓦解する中、この間の世話役活動が実を結んだ確かな一歩である。さらにJR連合への結集を呼び掛けていこう。





返ってみたい。情報等から読み解くと、一つは「模擬」の投票で、組合員への虚偽ではないうか。組合員にスト権をオルグし、その「模擬」の投票用紙を配布して記入させた人たちは今どうしていますか。二つ目は、その翌年の2月JR東労組中央委員会では、中央委員を含め会場に参

集したほとんどの組合員のもとで、2018春闘はスト権を掲げて闘うと「満場一致で可決」したはずだ。賛成とした人は今どうしていますか。三つ目は、会社がスト権の行使に対し社員に理解を訴えた後、組合員の瓦解が始まりJR東労組の臨時大会では、本部執行部の当時の委員長他一部の役員が先導したとして解任をし、「頭のすり替えをして新たなJR東労組」となったと報じている。

しかし、もう一度よく考えてほしい。スト権のオルグ・投票用紙に書かせた役員、中央委員会でもスト権を掲げて闘うことを可決した役員・中央委員、そして今まで一緒にいた役員等が臨時大会で一部の役員等に責任を負わせ、頭のすり替えをした今のJR東労組、そして東労組を脱退して各地で労働組合を結成している元JR東労組の役員・組合員活動家、この流れでJR東日本内に新たな労働組合を結成する。結果として、その労働組合の役員や活動家を本心に信じられますか。是非、そのことを職場の良識ある社員の皆さんに伝えてください。

重要課題とする

安全問題と技術継承

この2年で、JR東日本の社員数は5万人を割る勢いで、社員が移り変わる大きな転換点となっている。お客さまの死傷事故ゼロは、そういった災害からも守る術が望まれる。労使共通の課題である安全意識の向上を目指すしていく。また、重大インシデントの撲滅、繰返し発生する事象の撲滅に、社員一人ひとりの強い意識と責任を持たせる取り組みが必要。JR連合の掲げる安全指針とともにイースト運動としても取り組んでいきたい。

技術継承については、会社が教育として様々な取り組みをしていることは否定しませんが、しかし、職場の中で仕事を通して培ってきた職場づくりが、一番の技術継承です。その職場づくりには、労働組合的な意識の繋がりが内面にあったと思う。いい会社の中には、いい職場がある。それを築くのは、会社の教育や現場管理者の指導だけではなく、労働組合の中で業務活動として取り組んできた組合員との対話、問題の集約、交渉といった、職場づくり運動が効果的に関与していたと信じている。そのためにも技術継承には、企業内労働組合の責務として、会社とともに取り組まなければならない課題である。

新たな組織へ向けた思い

JR東労組をやめた25年前、もしくは国鉄改革からJRの将来を憂い、労働組合を危惧していた30年前、私たちは労働組合の柱に「民主主義」だけにはJR労働組合の中に残そうとして、この間今日まで様々な労働組合の離合集散を繰り返してきました。その中で再三四、私たちが排除する攻撃を仕掛けられてきた。しかし25年たった今でも私たちの組織は残っている。JR連合をはじめとして様々な所からご支援もあった。諸先輩が心血を注いで守ってくれた功績もあった。その中でこの「民主主義」の礎を、今ここに私たちがどうするか判断に迫られている。当たり前に「次の若いJR世代に私

来賓・挨拶

JR連合・松岡会長



西日本の豪雨災害について、交通インフラに携わっている者として、しっかりと受け止めて対応していかなければならない。組織について、民主化闘争に取組み19年目にし大きな地殻変動が起きた。昨年のイーストユニオン大会で川合先生が話しされたとおり、質問主意書については2月に提出していただいた。主体的に東日本会社にイーストの運動を伝えることである。

日本で一番大きな鉄道会社が労働組合もなしに会社を回しているのか、それでいいのかという事である。まともな労組としっかりやる必要がある。さらに、多くの支援・協力を得られるよう働きかけていく。連合からも問い合わせがある。

新幹線での殺傷事件が起こったが他人事ではない。

く、大きな課題として、セキユリティーのあり方等について議論を深めなければならぬ。

J R東日本労連からの脱退が続いているやに聞こえている。また、バス関係も動いているとのこと。組織拡大に向けて更に取組みを一緒に進めよう。

かわい たかのり
参議院議員(国民民主党)



日頃からのご支援に感謝する。西日本では甚大な豪雨による被害が発生している。鉄道というインフラを支え、現在も必死に奮闘されている皆さんに敬意を表したい。被災された方にお見舞いを申し上げる。

国政にも大きなうねりが生じて、民進党は小池氏によって排除された。私には国民党の都連会長として連合東京と一緒に頑張っている。立憲は相違った立場でやっているようだが、国民民主党は健全に進んでいきたい。2月に質問主意書を提出した。合法的でなく前年確立した？スト権、ゲ

リラ的なものであつて許せるものでない。革マルと東労組の関係を質した。脱退組にも皆さんで明るく、元気で、楽しく声をかけること。心を開いてくれるはず。

来年の参議院選挙には、U Aゼンセンから「田村まみ」氏が組織内候補者の予定となっている。国民民主党からの出馬となるが、ご支援をお願いする。

ご挨拶を頂戴した
ご来賓の皆さま

J R C労働組合

鈴木・執行委員長



全交運共済生協

松井・東日本事業本部長



退職者連絡会

古川・事務局長



ご来賓にはJ R連合から、政所企画部長、中山組織部長にもお越しいただきました。紙面を借りて、皆々様に厚く御礼申し上げます。

質疑応答

高橋 代議員(関東)



神田 代議員(新潟)



高橋 代議員(新潟)



添田 代議員(仙台)



菅井 代議員(関東)



和知 代議員(関東)



鈴木 代議員(仙台)



大和田 代議員(関東)



柄窪 特別代議員
(営業部会)



質疑応答・発言要旨

・多くの方より、発言冒頭に西日本豪雨の被災に対するご冥福とお見舞いが伝えられた。

【安全】

・6/9、東海道新幹線内の殺傷事件に関し1名が死亡、2名が負傷した。在来線や駅の対応はどうなのか。2020までのテロ対策はどうなっているのか。安全や秩序の維持はお客さまと同じく私たち社員の安全や安心に繋がる。

・6/17、東北新幹線、仙台〜古川間、こまち・はやぶさ21号の接地点で6時間止まった。仙台〜東京間の運転は本数が少なければ可能ではなかったかと思う。当日、仙台と東海ユニオンとの交流であったが、福島で大幅な足止めに遭ってしまった。

【民主化闘争・組織拡大】

・東労組の脱退者、3万3千名を越えたとの情報がある。J R東日本の社員として考え行動した脱退者は、その後の組合にも入っていない。

る方がいるようだが健全な会社には健全な労使関係が必要である。

・東労組の独善的な労使関係は衰退した。今こそ、民主的な労働運動を根付かせる時である。国鉄改革の精神を実現させるためには労使が同じ方向を向いた労使関係が大切である。

・過激派やイデオロギーに支配されるのではなく民主的な組合、J R Eユニオンに多くの仲間を結集し民主化闘争完遂をしなければならぬ。

・30年続いてきた第一組合の東労組は「あつけない」崩壊した。会社側からの動きで大きく進んだものである。私たちに、残念な思いは、私たちの動きによって東労組が崩壊した訳ではない。

・組合運動の原点は分会である。世話役活動である。組合に対して希薄な者が多い。我々自身が、物をいう頑固おやじになつて、しつかり仕事をし、J R連合の輝かしい運動を継承していかなければならない。

・方針書にもある1人が10人に1人に10回、話を追いつめられた立場で闘い

に臨んでいくことを表明する。
 ・ 本社の方々が現場の実態を理解しているのか。正しく報告されているのか。現場の実態を正しく本社に伝えてほしい。
 ・ 方針書にある組織拡大について1人が10人と対話、1人に10回対話である。今までの取り組みが足りなかった。現場でも噛み砕いてこの取り組みを進めていく。

平成30年度 大会代議員

【関東】

・ 大和田義雄・菅井正和
 ・ 高橋佳昌・和知利昭
 ・ 遠藤日出樹

【仙台】

・ 添田寿男・鈴木義一
 ・ 斎藤勝彦・小林俊一
 ・ 青田節雄・水間 勉
 ・ 橋本康男・根本好隆
 ・ 大塚俊彦

【新潟】

・ 神田広栄・瀬藤正樹
 ・ 金田友稔・高木義憲
 ・ 鈴木雅明・高橋基逸
 ・ 南雲春彦・黒井哲夫
 ・ 渡辺博幸・渡辺敏昭
 ・ 木村 豊

【特別代議員】

・ 大泉浩康(管理部会)
 ・ 船山勝広(設備部会)
 ・ 板窪吉則(営業部会)
 ・ 日光 忠(運輸部会)

・ 仙台地本は6月に1名、組織拡大を果たした。東労組は今回、墓穴を掘ったが、我々は受け皿になっているのか疑問である。全ての運動を組織拡大にリンクさせてきたが反省と総括が必要である。

・ 関東は、昨年より4名の方が新戦力として加入してもらった。

・ イーストが主力組合になると、こんな会社になる。こんなことをする等というアピールが少なかつたと思う。もっとイーストユニオンの在るべき姿をアピールしていこう。

・ 3万2千人が組合無所属である。イーストユニオンが飛躍的に発展できない歯がゆさを感じている。福島県分会は、毎週金曜日に未加入者対象の学習会を開催してきた。今後ともイーストユニオンのアピールをしていく。

・ 我々が我々であるためにイーストユニオンの仲間を大切に共に悲しみ共に喜び合うことを通じて組織拡大を果たしていく。

日本最大の鉄道会社「JR東日本」 正常な労使関係の存立無くしては 「安全安定輸送」は築けない

【技術継承】

・ 技術継承について、喫緊の課題であるが進んでいない。会社よりグループ経営ビジョン2027が出された。今後10年で会社は大きく変わろうとしている。いま転換点である。労働組合がいかにあるべきか問われている。

・ JR30年、東労組は崩壊したが現実はどうか。会社は次々と新たな施策を出してきている。それに対応できるのは労働組合である。決して東労組や社友会は対応出来ない。

・ 対応できるのはイーストユニオンである。組合員一人ひとりが目標に向かって進んでいく。

・ 仙台駅の業務委託が再度提案された。現場と話をしながら本部の協力を受けて交渉に臨んでいく。
 ・ 本年4月から本体エルダーが実施された。業務委託や業務改善を実施しても技術の継承が進まなければ鉄道の安全安定輸送は維持できない。

【団体交渉】

・ 本部の交渉に敬意を表す。イーストの交渉が会社より評価を受けることで組織拡大へ繋がるものと考えている。社員が何万人集まっても交渉は出来ないで組合の取り組みの大切さを感じる。

・ 本体エルダーの位置づけ、今後の責任の所在、モチベーションの維持等について、現場が混乱しないように本社本部間の検証をお願いする。

・ 東海道新幹線の殺傷事件、ご冥福とお見舞いを申し上げる。報道によると車掌は訓練をされていたという。座席を盾にする訓練である。かつて、私も車掌だった、命の危険を感じたら逃げて良いとだけ言われていた。現在の車掌はどのような教育を受けているのか。逃げるだけなのか。団体交渉で対応してほしい。

【その他】

・ SNSの活用は有効と思う。是非お願いしたい。

・ 新潟支社として、組合不要論が本社に上っているようだが、新潟の支社内には組合は大切だと感じている方もいる。健全な企業には健全なパートナーが必要である。

・ 本春闘のスト権問題で東労組の大量脱退が発生した。会社は、素早く社員会を作り36協定問題を乗り越えたことで、会社内の労働組合不要論が広がっていると危惧している。

・ 東労組は、分裂が進み、東新鉄労、新潟、高崎と新組合が立ち上がっている。新組合は過激派主導ではないかと考えている。本部の見解を明らかにしてほしい。

・ 国鉄時代、変化に対応できなかった経営や労働組合があった。繰り返すことのないように会社に対してほしい。

中間答弁

大橋 業務部長
 池田 組織部長
 秋山 組織総括部長

・ 新幹線のセキュリティ問題、新幹線のぞみ225号、放火事件に関して申し入れをし交渉をした。保安検査をしたら3分ヘッドでの新幹線(東海道)

の運転はできない。交渉で訴えたのは、車内のカメラでデータをとっても予防対策にはなっていないと指摘した。いま、のぞみ265号殺傷事件に関する申し入れをしている。会社の在り方を批判するばかりではなく、データの利用が進むように取り組む。

・ 新幹線の地絡事故、異常時の運行管理について長年の経験を活かす取り組みが進むように訴える。

・ 若い方が傍観者になっている。会社は組合不要論であることを感じさせている。私たちがやることは、1人が10人に声を掛ける。1人に10回声を掛けることである。そのことで1人でも組合に興味を持ってもらい組織拡大に繋げていく。昨年度の方針書にも書いてある。地道にやるしかない。

・ 社友会と組合。組合の考え方は、組合員と家族の幸せが会社の発展に繋がると考えている。

・ 異動の事前通知の裏側に簡易苦情処理について書いてある。対応できるのは労働組合だけである。・ 労使関係は車の両輪である。良い時は良いが、困った時に誰が守ってく



れるのか。それは、労働組合である。労働組合と社友会の違いは、法的拘束力の違いである。そのことを3万2千名に伝えてほしい。

・今回、乗務員の勤務制度改正がある。私たちは、単に反対するだけではなく、多くの方が働きやすい環境が進むように声を出していく。

・組織拡大に向けて、みんなが本心に動いたのか。東京での拡大、新潟や仙台での拡大。イーストユニオンに加入してくれたことに感謝する。

・一人ひとりが限界を決めないで行動しよう。組

合のアピール不足、一番は自分の言葉で話をすることだ。1人が10人に、1人に10回、話をしよう。

・新組合の考え方について、地方、地方で違うと思うが、過激派との考えも在り得る。広範囲な情報交換をしていこう。

・本年度は7名の拡大をした。

・各地で色々やっている。声かけも遊ぶことも大切である。

・8月に白河で第3回のキャンプを行う。多数の参加をお願いする。

・会社の労働組合不要論、会社がどのように考えるのかは自由である。会社の考えを変えさせるのは我々である。

・労働組合は大切である。過激派に蹂躪された組合を選んだのも会社だし、ひどい目に遭ったのも会社である。当たり前の労働運動をすることが会社の発展に繋がる。

・今、東日本の危機だと思ふ。東日本を救うことが出来るのはイーストユニオンである。自信と確信を持って組織拡大を図る。イーストユニオンでなければ、この会社を救えないことを訴えよう。

・我々は最初から普通だった、国鉄改革のころから言ってきたことも、やってきたことも、まともだった。自信を持って行動しよう。

総括答弁

国井事務局長

この1年、熱いハートで頑張ろう



一人ひとりが傍観者であってはならない。今、会社は、色々の施策を出してきている、会社の対応を掲示板に張り出して。私は、誰かれなく話をする。乗務員制度や手当の改正など、若い無所属の方が聞いてくれる。一緒に話をすると年間10万円の組合費が無くなつてラッキーですとの話して返ってくる。私は、それで良いのかと聞く、一緒に組合の事について話をしようと言うと、勘弁してくださいと言う。組

合の大切さをいつか、彼らは気付くだろうが、早く気付くように1人が10人へ1人に10回、話をしよう。

組合不要論について会社を選択するならばしかたないが、私たちはロボットではない、会社に働かされているのではなく会社と向き合い、納得をして働いている。そのことが幸せに繋がると思う。

安全は最大の使命である。安全がなければ私たちの社業も成り立たない。

JR東日本の社会的地位も保てない。最近、列車妨害が頻発している。7/3、セキユリテイル問題として申を提出した。お客さま、鉄道関係労働者の死傷事故「ゼロ」について、職場の中で話をしに行こう。常に安全を意識して行動しよう、それが組織拡大に繋がる。

全ての事が組織拡大に繋がることを意識付けて行動しよう。

委員長はこの1年、死に物狂いで頑張ろうと言っている。今の若い方の目線、立ち位置で考え行動しよう。

これからの30年を見据えてやっていかなければならない。彼らに夢を語る

ろう、我々の力の結果はこの1年にある。熱いハートで頑張ろう。



【平成30年度・新役員】

執行委員長 菅野一位 (仙台)
執行副委員長 秋山順一 (関東)
飯野 浩 (仙台)
事務局長 国井道徳 (新潟)
執行委員 大橋俊明 (仙台)
三瓶信次 (仙台)
斎藤弘昭 (関東)
斎藤修 (新潟)
菊池博英 (関東)
会計監査 池田庄一 (新潟)

退任した執行委員 池田庄一さん、瀬戸信作さん、お疲れ様でした。

祝電・メッセージ

・鎌田JR東海ユニオン
中央執行委員長・荻山J
R西労組中央執行委員長
・中濱JR四国労組執行
委員長・大杉貨物鉄産労
中央執行委員長・中原J
R九州労組中央執行委員
長・昆JR北労組中央執
行委員長・大沼国労東日
本本部執行委員長・井上
春日部市議会議員・小野
亘理町議会議員・見波中
央労働金庫新橋支店長



共済の基本は、仲間同士の助け合い。相互扶助の輪をひろめ、全組合員と家族の福祉向上に取り組みよう。

大会宣言

本日、私たちは、田町交通ビルにおいて、第6回定期大会を開催し、組織の決意を込めた運動方針を確認するとともに、全組合員が一丸となって力強く突き進むことを満場一致で決定した。

私たちは、JR東日本内に責任ある企業内労働組合を目指し、会社の社会的信頼と発展こそがそこで働く社員の幸せに直結するとし、施策提言型運動をベースに、労働組合としてのチェック機能と民主的な企業内労働運動を展開してきた。

そして本年、私たちを取り巻く情勢は大きく変化した。国鉄改革時に取り残された過激派が主導するJR東労組と会社の関係は終焉を迎えたが、JR東労組が消滅したわけではない。民主化闘争で大きな変化点になったことは間違いないが、過激派主導の労働組合がJR東日本内に影響を及ぼすその勢力は減っても無くなったわけではない。そうした影響力の排除ができてこそ、民主化闘争の完遂となることをしっかり受け止め、未来を創造できる組織が私たちジェイアール・イーストユニオンであることを再確認した。

私たちの目指す労働組合は、JR東日本内の責任ある企業内労働組合である。大衆運動や政治闘争をするための左翼的な労働者イデオロギーを振りかざした組織ではなく、この会社に根差した社員のための労働組合を次の30年に繋ぐため、新たに創造する企業内労働組合にこだわり、次代に継承していくために民主化闘争の完遂にむけて力強く行動を展開する。

安全への取り組みは、「お客さまの死傷事故とすべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を労働組合としての命題と重く受け止め、JR連合の掲げる安全指針をもとに会社との議論をさらに深めていかなければならない。重大インシデント、繰り返し発生する事象の撲滅には、社員一人ひとりの強い意識と責任が必要である。そのためには社員と会社間での絶対的な信頼関係の構築が必要条件である。

昨今、JR東労組との関係が瓦解した直後から、東日本管内での列車妨害が530件を超えて発生していると報じられている。労使関係が悪化すると安全が脅かされる事象がなぜ起きるのか、過激派指導の組織が関与していると安易に想像してしまう。お客さまから鉄道輸送の安全への信頼を守るためには、毅然とした態度で列車妨害に対処していかなければならない。会社の信頼を失ってはならない。私たちは、現場で一つひとつの課題に真摯に向き合い、責任ある企業内労働組合として、安全環境を構築する安全の取り組みを職場の中から展開し、労使一体となってJR東日本の社会的信頼の更なる向上に取り組んでいく。

イーストイノベーションは、「自らを変える!! 明日を創る!!」として、これまでの自分を変えて次代に突き進む新たな組織を標榜している。JR東日本の中に、本当にそこで働く社員のための労働組合は絶対に必要である。過激派に蹂躪された労働組合はまだなくならない。それと対峙するためには、真にJR東日本を憂い守る企業内労働組合を構築し継承するしかない。私たちが2014年に新たに舵を切り、イーストユニオンを結成したその訳は、今、この時にある。

仲間と共に 新しい労働運動をつくるその中核が私たちであることを認識し、全組合員で全勢力を出し切って、次代に繋ぐ「真の企業内労働組合」になろう。

以上、宣言する。

2018年 7月 9日
ジェイアール・イーストユニオン
第6回定期大会